

市民との協働によるまちづくりの推進に期待する

2年にわたり市民意見を丁寧にくみ取り策定した地域コミュニティ基本指針に基づき、新たな地域づくりの取り組みが4月からスタートする。地域コミュニティづくりに対して、市が本格的に支援することはこれまでにはなかったことで、高く評価する。

これまでの古賀市政で貫かれてきた柱の一つである市民との協働によるまちづくりの姿も、かなり具体的なものになりつつあるとして、次のような質問があった。

地域コミュニティの推進によるまちづくり

問 これからは、小学校区単位で独自の地域づくりが展開し、地域活動の可能性が広がることになるだろうが、住民による地域づくりに何を期待するのか。



答 地方分権の流れの中で、これからのまちづくりは、市民が主体的に進めるものでなければならぬ。

市民が主役の協働のまちづくりの実現には、地域コミュニティの形成が必要と考え、地域コミュニティ基本指針に基づく校区まちづくり協議会の形成の働き

かけも始めているが、市ではさらなる促進のため、校区まちづくり交付金などの制度面での支援に取り組む。同協議会には、自らの住む地域を自らの力でより気持ちよく住み続けられるまちにするような機運ができ、地域活性化が進むような地域力の充実に期待する。

問 共助と公助をどう区別し、これからのまちづくりを行っていくのか。

答 様々な地域課題に対し、まずは自助・共助の取り組みで解決を願いたい。どうしても解決できない場合は、公助での対応となる。

ただし、共助と公助の区別は固定的なものではなく、地域力が高まれば地域で成し得ることもふえ、共助の領域は拡大すると思う。

地域コミュニティの再生を促進し、地域が本来持つ地域力を取り戻し、市民が主役の協働のまちづくりを進めていけるような支援に取り組んでいきたい。

中心市街地の活性化とレマン跡の利活用

問 新栄町駅前地区再開発準備会の再開発事業の当初の検討段階では、さきに市が提示したレマン跡の活用のように、事業街区内部での公的施設の導入も検討されたと思うが、今後の再開発事業との整合をどう図るのか聞きたい。

答 新中心市街地活性化基本計画の中間報告にあるレマン跡活用整備事業では、市民の利便性に寄与する公共公益的な都市福利施設を整備する事業と位置づけ、現在、(仮称)中心市街地にぎわい交流施設整備事業として、子供から高齢者まで多くの市民が気軽に利用できる交流施設の整備を検討している。

このことから、新栄町駅前地区再開発準備会では、再開発区域での公共公益施設の導入について、市がレマン跡を検討していることに留意し、(仮称)中心市

街地にぎわい交流施設整備事業との整合も見据え、主に居住機能と憩いの空間の整備、駅機能の更新、既存商業機能の再配置等が構想として示されている。

今後、両事業の整合を図りながら諸課題の整理を行い、同準備会との協議を密に行っていきたい。

問 井筒屋跡地については、現在、新栄町商店街振興組合が、所有者のコンダクト株の了解のもと、コスモスの植栽を行っている。

所有者に補助金を支出した経緯もあり、分譲マンション建設について、今までの具体的な指導が必要と思うがどうか。

答 同跡地は、十七年度に分譲マンション建設の事業計画が提出されたが、依然として建設に至っていない。

中心市街地を活性化する上でも、計画実現は不可欠と考えており、街なか居住を促進するため、引き続き所有者と協議していきたい。